



# 「省エネ暖房」のすすめ

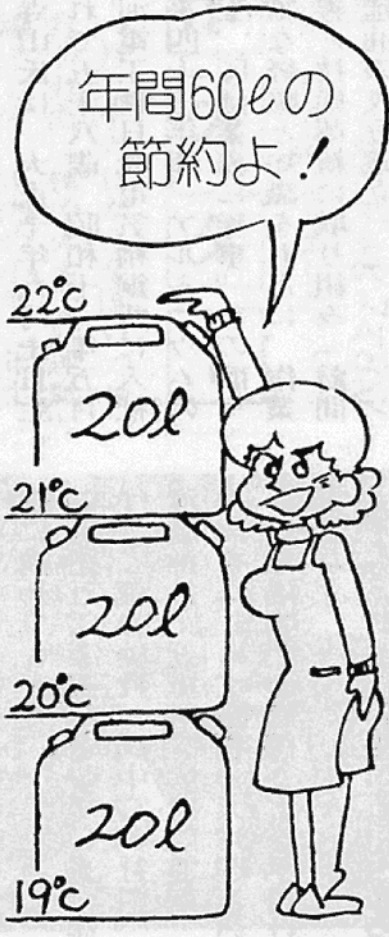
## 暖房温度は19度以下に

省エネルギーにご協力を

今年の夏は「冷房温度はおおむね二十八度」を目標に、石油の消費節減にご協力いただきましたが、この冬の「省エネ目標」は「暖房温度は十九度以下におさえよう」です。

暖房温度を一度下げることによって節約できる灯油は、一世帯あたり年間約二十リットルと試算されています。ですから、仮に三度下げ

としますと年間約六十リットルの節約となり、家計の上でもそれなりの



出費をおさえることができるというわけですね。

家庭で使ういろいろなエネルギーの中では、平均して暖房用のものが最も多いといわれます。

国全体の省エネルギーを進める上で、私たち一人一人の「省エネ」暖房への協力がぜひとも必要です。

## みんなで考えよう冬の省エネルギー

この冬の家庭での省エネルギーを進めるために、暖房用エネルギーの節約につながる工夫をしてみませんか。どのような小さなことでも面倒がらずに、まず身の回りのことから始めましょう。

たとえば、カーテンはなるべく厚手のものを使うのも「省エネ作戦」の一つで、さらに上部を天井まで伸ばしたり壁に密着させ、下は床にまでたらずと、部屋の暖かさが違ってきます。

また、すきま風は部屋の温度を下げるので、窓に目ぼりをするのもよく、あるいは窓そのものを気密性の高いサッシに取り替えると部屋の「保温」に効果的です。

ストーブについても、ふだん手入れを欠かさないと大切で、ストーブのしんがそろっていないと、空気孔にほりがついていたり、エネルギー効率がよくないばかりか、不完全燃焼を起したりします。日ごろの点検を怠らないようにしましょう。

反射型のストーブの場合は、反射板をよくみがいておくと熱効率がよくなります。

このほか、家庭でできる冬の省エネルギーについて、私たち一人一人が、まず身の回りに目を向けることから始めたいものです。

## 体の不自由な人たちに理解と協力を

今年、身体障害者福祉法が制定されてから三十周年を迎えました。これを記念して、全国各地で十二月いっぱい「身体障害者福祉強調運動」が展開されます。

体の不自由な人々が、そのハンディキャップを乗り越え、各種の社会活動に積極的に参加し、より豊かな人生を歩んでいけるような社会づくりを進めることこそ、健康な人たちの義務といえるでしょう。

「困っている人がいれば、お手伝いしたい」というのは、人間としてごく自然な気持ちであるはず。温かい心づかいで体の不自由な人たちのお役に立ちたいものです。

何よりも大切なことは、体の不自由な人々に対する私たち一人一人の理解と協力です。

### ボランティア活動に参加を

体の不自由な方々の日常生活を助け、社会参加できるようお手伝いする方法として、ボランティア活動があります。

たとえば点訳奉仕、手話奉仕、家事手伝いや介護、施設訪問などがそうです。

参加を希望される方は、福祉事務所にお尋ねください。